

「提言」を「標語」として表わしてみました。

提言（１）

社会教育への発想をきりかえてみましょう！

- 社会教育を特別で難しいものとする必要はなく、日々の活動にも見つけることができます。
- 「私たちが社会教育をどのように理解すれば、私たち一人ひとりの生活がより豊かになるのか」と、日々の活動において考えてみましょう。

提言（２）

みんなで「つながり」を広げましょう！

- 日々の活動にある社会教育のなかでも、とりわけ、ともに学んだり、教えたりする「つながり」を広げていくことで、さまざまな課題が解決され、要望が満たされるなど、より豊かな生活を送ることができ、みなさんは**幸せを実感**することができると考えています。
- これまでは海を介した他の国々などとの「つながり」のなかで堺が発展してきました。これからは社会教育を介したみなさんの「つながり」のなかで、地域、そして堺がさらに発展していくと考えています。

標語

より豊かな生活を楽しみましょう！

「つながり」がこれからの堺を変える

～ 堺が考える社会教育 ～

（提言書）

【概要版】



編集・発行 堺市教育委員会事務局地域教育支援部地域教育振興課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1

TEL：072（228）7490 FAX：072（228）7009

メールアドレス：chikyoushin@city.sakai.lg.jp

ホームページ：

<http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/kyoiku/gakko/suishin/syakyouiin.html>

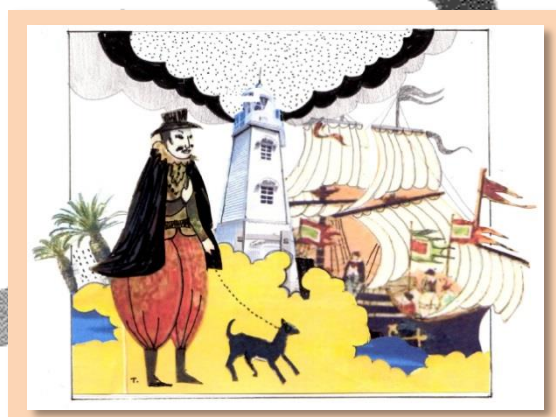
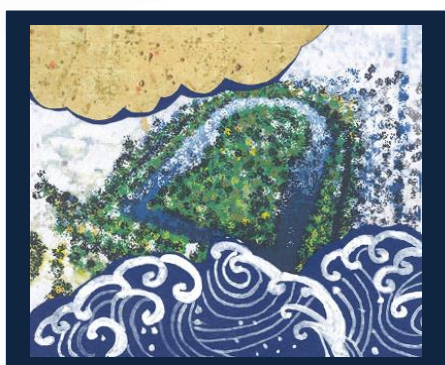
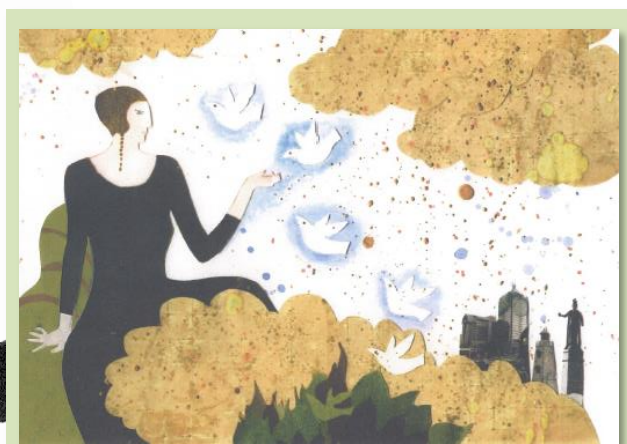
堺市行政資料番号：1-K3-17-0160

提言書（概要版）の詳しい内容は、堺市ホームページのほか、市政情報センター、区役所市政情報コーナー、図書館でご覧いただけます。地域などの魅力ある活動や行政の取組を掲載した事例集があわせてご覧いただけます。

【概要版】

「つながり」から 「つながり」へ 「つながり」を 「つながり」へ

～ 堺が考える社会教育 ～
(提言書)



平成29年6月
堺市社会教育委員会

提言書の概要

「みぞさかい」
(堺区キャラクター)



1

ここには、何が書いてるんですか？

提言書で伝えたいこと(提言)

私たち社会教育委員が考える社会教育を説明しています。社会教育は、特別で難しいものではありません。みなさんの日々の活動にもあるととらえることができます。ここでは、伝えたいこととして、ふたつの提言をしています。

➡ 提言(1) 社会教育への発想をきりかえてみましょう！

ひとつは、「社会教育とは何か」と難しく問うより、まずは「私たちが社会教育をどのように理解すれば、**私たち一人ひとりの生活がより豊かになるのか**」と、日々の活動において考えてみることです。

➡ 提言(2) みんなで「つながり」を広げましょう！

もうひとつは、日々の活動に見出すことのできる社会教育のなかでも、とりわけ人々が学びあい教えあいのある「つながり」を発見することです。



「サカエル」
(堺区キャラクター)



2

もうちょっと詳しく教えてください。

『一般に言う社会教育って？』

法律で書かれている一般に言う社会教育とは、**学校や家庭以外の社会で広く行われる組織的な教育活動**のことです。また、一人ひとりが日々の生活のなかで出会うさまざまな課題の解決などに向け、自分にあった形で学びを支える教えとも言えます。

私たちは、この考え方も大切であると考えていますが、まず、みなさんが日々の活動に学びあい教えあいとしての社会教育があると考え、それを一般に言う社会教育の考え方に含めてとらえてみることも大切であると考えました。



『ともに学んだり、教えたりするためには、 どうしたらいいのかな？』

そのように社会教育をとらえると、日々の活動のなかで、ともに学んだり、教えたりすること(学びあい教えあい)は、**お互いに対等な関係(「対等であること」)の「つながり」のなかで、「気づくこと」「表わすこと」「分かちあうこと」という三つの側面**で理解すると分かりやすくなります。

➡ ■エピソード1 「ともに学んだり、教えたりすること」で、具体的に説明しています。



『堺らしさって？』

私たちは、堺の歴史や文化を振り返り、「**人権**」「**国際**」「**先人**」というキーワードで導き出された堺らしさが堺を発展させてきたと考えました。

この提言書では、その堺らしさを生かした社会教育を、「対等であること」を大切にしつつ、「気づくこと」「表わすこと」「分かちあうこと」として示したいと考えます。

➡ ■エピソード2 「堺らしさ」で、具体的に説明しています。



キーワード

☆みなさんの日々の
生活がより豊かに…

☆社会教育への発想のきりかえ
と「つながり」の広がり

『誰がつながるのかな？ 何がつながるのかな？』

「つながり」の担い手は、**みなさんや各種団体**です。人がつながり、その人が持つ**知識、能力、経験や存在**もつながると、さらに**活用できる場所や物事**もつながると考えています。



『ともに学んだり、教えたりすると、どうなるのかな？』

つながることを通じて、みなさんが成長するとともに、みなさんの知識、能力、経験や存在が生かされ、人に認められ役に立つなどの喜びを感じ、また、人に支えられているという安心感も生まれます。その結果、さまざまな課題が解決され、要望が満たされるなど、より豊かな生活を送ることができ、みんなが幸せになると考えています（「**個人の幸福**」）。そうすると、地域、そして堺が発展するとともに福祉が向上し（幸せが広がり）、また、このような「つながり」が全国、やがて世界にも広がるようになれば、「**人類の福祉と平和**」が実現し、**誰もが取り残されない、一人ひとりが幸せな社会**となると考えています。



『どうつながるのかな？』

私たちが考える「つながり」は、一人ひとりの**違いを認めあい、ともに学んだり、教えたりする関係ですが、外に開かれ、自ら進んでいく**ものでもあります。

これまで海を介した他の国々などとの「つながり」のなかで堺が発展してきたように、これからは社会教育を介したみなさんとの「つながり」のなかで、地域、そして堺がさらに発展していくと考えました。



『社会教育委員会議は、何するのかな？』

このような「**つながり**」を、**みなさんや各種団体と一緒に広げていく**のが私たち社会教育委員会議の役割と考え、私たちは、「つながり」拡大の仕掛人として、次の実践をし、堺の魅力ある社会教育の活性化に寄与したいと思います。

○団体が日々取り組んでいる**活動を訪問**し、学びあい教えあいに**気づき**実感します。

○気づき実感したことを言葉や図などで**表わし、提言書などにまとめ**ます。

○提言書などにまとめたことを**分かちあう場**を設け、**呼びかける活動など**を行います。



3

具体的に教えてください。

■エピソード1 「ともに学んだり、教えたりすること」 ➡ 子どもの見守り活動で、「いつもは子どもが二列で歩いても安全な通学路が、雨の日は傘を差すので一列でないと危険だから、子どもたちにしっかり注意しよう！」と気づき（学び）、子どもたちに教えるとともに、他の見守り隊にミーティングなどで教え（表わし）、分かちあい、また、他の見守り隊から「そういえば、こんなことも…」と学ぶこともあります。

■エピソード2 「堺らしさ」 ➡ 堺を代表する与謝野晶子（よきのあきこ）（1878年～1942年）は、歌人としてだけではなく、人間一人ひとりの個性を尊重し、女性の社会的経済的自立や父親の育児参加など（対等）についても気づき、積極的に詩歌や評論などで表わし、多くの人々と広く分かちあうなど、さまざまな分野で活躍した人です。

